

キャラクター名 _____ プレイヤー名 _____
 FHスレイヤー _____

シンドローム	モルフェウス	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	ナイトフォール隊員
	モルフェウス				
オプション		年齢	13	性別	男
覚醒	憤怒	衝動	破壊	初期侵食率	38 %
出自	天涯孤独	経験	家族の死	邂逅	勧誘

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	2	0	0			2	行動値	12
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	9
精神	0	1	0			1	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	9		射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識: 遺産	6		情報: UGN	6	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
インフィニティウェポン	白兵	2r+9	3	12		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
祈りの造花		8	0	0	<インフィニティウェポン>5取得。ジャームとなったら遺産の一部になる
白猿の額冠		5	0	3	ハヌマーンの効果をレベル1で1つ取得。暴走したら5D10分HPを失う

所持品	
コネ: 強羅瑠璃	
コネ: UGN幹部	
思い出の一品	

合計装甲: 13 合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ 消費
ロイス: 「遺産の器: 祈りの造花」	P 遺志	N 悔悟	
ロイス: 「遺産継承者: 白猿の額冠」	P	N	
REC: 強羅 瑠璃	P 尊敬	N 食傷	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 6 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
インフィニティウェポン	5	3	マイナー	至近	自身	自動成功	-	
効果:	武器作成							
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	CL-1							
咎人の剣	5	4	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果:	攻撃力+[Lv×5]。インフィニティウェポンで作成した武器を使用した攻撃のみ							
カスタマイズ	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	ダイス+Lv個							
剣聖の手	3	2	オート	至近	自身	自動成功	リミット	
効果:	ダイス目を1つ10に変更。1シナリオ[Lv+1]回							
ギガンティックモード	1	3	メジャー	武器	範囲(選択)	対決	-	
効果:	「対象: 範囲(選択)」に変更。武器は破壊される							
ペネトレイト	1	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	装甲無視。ダイス-1個。							
一閃	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	全力移動を行った後に白兵攻撃							
折り畳み	2	-	メジャー	至近	自身	自動成功	-	
効果:	物を隠す。見破るなら知覚							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【設定】
 自分は両親に捨てられたらしい。らしいというのはその頃自分が赤ん坊のうちに神父からそのことを聞かされたからだ。自分は教会の前に捨てられていてそこを神父が広い育ててくれたんだ。その教会は孤児院にもなっていて、自分以外の孤児の人たちがいた。・・・全員女性だったが。名前を貰い、物心つく頃には姉さんたちに弟としての宿命たる弄りを受けながらも幸せな日々を過ごしていた。しかし、突如教会が襲撃を受けた。姉さんたちは俺を隠し「絶対に出ちゃダメだよ」というと姉さんたちは不思議な力を使い襲撃者に立ち向かった。しかし、結果は惨敗。奴らは我が物顔で教会をのし歩き、神父を殺し、シスターを殺し、略奪して回る。そして、姉さんたちは驕り者にされ、玩具にされ、殺された。連中はガタガタと笑って好き放題で、家族の死体を放り捨てた。その光景を自分は最初から最後まで隠れて息を殺して見続けていた。許せるはずがない。その憤怒と憎悪に応えてか、自分の中に確かな力が芽生えるのを感じた。その時に激痛もあつた気がするが、それ以上に心の傷が痛く気にもならなかった。それでも暴走しなかったのは姉さんたちのおかげだった。姉さんたちは殺される直前までただ「一生きて」と自分に願ってくれた。自らの救いを求めず、ただ自分の生存を願ってくれた。その姉さんたちの祈りが偶々そこにあった遺産”祈りの造花”に呼応し思いが流れてきたからだ。だから自分は暴走せずに済んだ・・・
 後に、UGNと呼ばれる組織の人たちが来て、この教会がUGNの施設だったこと。そして、襲撃者たちがFHという敵対組織であることを知る。そして自分がオーヴァードに覚醒しており、なおかつ”祈りの造花”に選ばれたものであることを知る。そしてUGNエージェントの人たちは自分に「UGNに来るかい？君の名前は？」と聞いてきた。そこで自分はこう答えた「行きます。僕の・・・俺の名前は」この名に全ての憎悪を込めて「FHスレイヤー」そしてUGNに行くこととなった。
 UGNに行つてからは、武器を取り、自分を鍛え、考え、成長し、とにかく報復してやろうと行動に移す。探して、追い詰め、戦い、襲い掛かり、殺して、殺して、殺して、殺して、殺していく。もちろん上手くいくこともあれば、失敗することもあった。ならば次はどう殺そう。どう殺せば良いか。何日、何カ月と考え続け、思いついたアイデアがあれば片っ端から試していく。そうしていく内に、楽しくなつていった。
 間抜けなお優しい奴らが、子供は見逃してやろうなどとたまう。そういう甘さがこの戦いを終わらせないと知らずに
 FHを殺していく中で、遺産：白猿の額冠を手に入れる。そしてどういうわけかまたしても自分は遺産に選ばれてしまった。2つの遺産を手に入れたことで強羅瑠璃からスカウトされ、ナイトフォールの一員となった。これはとても都合良かった。遺産を調べ上げ、奴らが欲しがる遺産に目星をつけ、襲い掛かり殺しやすくなった。だが、強羅瑠璃は苦手だ。尊敬はしているが、任務が終わるといつも抱きしめて「よくやった」とだけ言って頭を撫でる。鬱陶しい